

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
1	1-1	徳川美術館	とくがわびじゅつかん	名古屋市東区	徳川家康の遺品を中心に、尾張徳川家初代義直（家康9男）をはじめ、歴代の遺愛品やその家族が実際に使用した大名道具1万件余りを収蔵・公開する美術館です。
2	1-2	榎白山神社	えのきはくさんじんじゃ	名古屋市西区	1477年斯波義廉が白山比咩神社を当地に勧請。織田信長が桶狭間の戦い時に必勝祈願を行い、太刀一口を奉納したと伝わる。榎権現の名で親しまれ、境内には名古屋では珍しいお菓子の神様「田道間守社」がある。
3	1-3	中村公園	なかむらこうえん	名古屋市中村区	園内には豊國神社を中心に豊公誕生地之碑、秀吉の馬印である千成瓢箪にちなんだひょうたん池や秀吉清正記念館などが整備されている。
4	1-4	豊國神社	とよくにじんじゃ	名古屋市中村区	豊臣秀吉公を御祭神として祀る神社。秀吉にちなみ、出世、開運、茶道、建築等の祈願で有名。
5	1-5	秀吉清正記念館	ひでよしきよまさきねんかん	名古屋市中村区	織田信長の登場から豊臣秀吉の天下統一へのみちのり、さらに加藤清正ら尾張の武将たちに関する史料の展示を行う歴史資料館。
6	1-6	常泉寺	じょうせんじ	名古屋市中村区	境内には秀吉誕生の時に使われたとされる「豊太閤産湯の井戸」や秀吉が植えたとされる「御手植えの柊」がある。
7	1-7	妙行寺	みょうぎょうじ	名古屋市中村区	境内には甲冑姿の清正像や生誕之地碑があり、7月の大祭は多くの人でにぎわう。
8	1-8	下中八幡宮	しもなかはちまんぐう	名古屋市中村区	秀吉の氏神と伝わり、秀吉母なかが男子出生を願った日之宮神社は境外の摂社。近隣には秀吉が小田原征伐の帰路に大盤振舞したという伝承を残す寺社もある。
9	1-9	日之宮神社	ひのみやじんじゃ	名古屋市中村区	もとは日吉権現と称した。秀吉の幼名「日吉丸」はこれにちなむという。秀吉の母なかが男子を授かるように日参したという。「日吉丸生母祈願之碑」が残る。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
10	1-10	名古屋城	なごやじょう	名古屋市中区	徳川家康が築いた巨大城郭。本丸御殿は城郭御殿建築の最高傑作とされ、將軍上洛時の宿殿として利用された。
11	1-11	亀岳林 万松寺	きがくりん ばんしょうじ	名古屋市中区	織田信秀が、織田家の菩提寺として天文九年(1540年)に建立。織田方の人質になった松平竹千代(家康)が、信長と対面した地と伝わる。名古屋城築城の際は加藤清正の宿舎となり、仏足石を同寺へ奉納している。
12	1-12	若宮八幡社	わかみやはちまんしゃ	名古屋市中区	名古屋総鎮守として、家康はじめ歴代藩主が崇敬。5月に行われる例祭は、名古屋の三大祭りの一つとして有名。境内にある神御衣神社は縁結びのご利益がある。
13	1-13	日置神社	ひおきじんじゃ	名古屋市中区	『延喜式』西暦927年には存在したと考えられる神社。桶狭間の戦い時、信長が戦勝祈願し敦盛を舞ったとされる。勝利のお礼に千本の松を寄進したことから「千本松日置八幡宮」とも呼ばれ、今も「松原」の地名が残る。
14	1-14	名古屋東照宮	なごやとうしょうぐう	名古屋市中区	徳川家康を祭る神社。家康の命日である毎年4月17日に行われる東照宮祭は現在の名古屋まつりのルーツ。出世開運・商売繁盛・厄除・学業成就・勝負運・金運・縁結びのご利益がある。
15	1-15	名古屋刀剣博物館 「名古屋刀剣ワールド」	なごやとうけんはくぶつかん 「なごやとうけんわーど」	名古屋市中区	常時約150振の日本刀(刀剣)を展示し、国宝や重要文化財や重要美術品といった貴重な日本刀もご覧いただくことができます。さらに、甲冑(鎧兜)についても約50領と大規模な展示を予定。武将をや合戦を描いた浮世絵、刀装具、鉄砲など、刀と武将に関係するあらゆる美術品を展示する博物館です。
16	1-16	白鳥山 法持寺	はくちょうざん ほうじじ	名古屋市熱田区	天長年間、弘法大師空海が延命地藏菩薩像を彫り小祠を建立したのが始まりとされる。桶狭間の戦いの際、織田信長が立ち寄り必勝祈願をしたと伝わる。境内には横綱北の湖ゆかりの石碑や松尾芭蕉らの句碑がある。
17	1-17	太閤出世稲荷	たいこうしゅっせいなり	名古屋市熱田区	熱田神宮の摂社である高座結御子神社の境内社のひとつ。秀吉が幼少期に母に連れられ参拝したと伝わることからその名がついた。
18	1-18	前田速念寺	まえだそくねんじ	名古屋市中川区	前田利家の生誕地のひとつとされている。寺伝では利家はここで生まれた後に荒子に移ったとされている。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
19	1-19	荒子観音寺	あらこかんのんじ	名古屋市中川区	荒子観音寺は、尾張四観音の一つであり、市内最古の木造建築物である多宝塔は国の重要文化財としてである。また、1250余体の円空仏を所蔵し、毎月第二土曜日の午後1時から4時に一般公開されている。
20	1-20	笠寺観音（笠覆寺）	かさでらかんのん	名古屋市南区	正式名称は「天林山 笠覆寺」。織田家に幽閉された松平竹千代と今川方の人質交換が行なわれた地で境内には人質交換の碑がある。また、多宝塔など江戸時代からの建物が現存するほか、宮本武蔵ゆかりの顕彰碑がある。
21	1-21	小幡城跡	おばたじょうし	名古屋市守山区	大永2(1522)年岩倉織田氏の家臣岡田重篤が築城したと言われている。城は天文5(1536)年徳川家康の祖父清康が尾張に軍を進めた時に在城、その後天正12(1584)年小牧長久手の戦いの時は家康が城を修復し一時在城したがのちに廃城となった。
22	1-22	龍泉寺	りゅうせんじ	名古屋市守山区	尾張四観音のひとつとして知られる寺院。庄内川南岸の崖上に位置することから戦国期には城として利用された。長久手合戦後に家康軍を追って秀吉が入城した。模擬天守が建つ。
23	1-23	桶狭間古戦場観光案内所	おけはざまこせん じょうかんこうあん ないじょ	名古屋市緑区	桶狭間の戦い古戦場の玄関口。桶狭間古戦場公園から徒歩3分。ボランティアガイド（有料）はHPよりご予約ください。駐車場有り、史跡散策にご利用ください。
24	1-24	桶狭間古戦場公園	おけはざまこせん じょうこうえん	名古屋市緑区	桶狭間の戦いの中心地であり、おけはざま山に陣を構えていた今川義元が服部小平太と毛利新介に首を討ちとられた最期の地とされています。史跡公園として整備されており、園内には「織田信長、今川義元の銅像」や「今川義元の墓碑」等があります。
25	1-25	大高城跡	おおだかじょうあと	名古屋市緑区	桶狭間の戦いの時、松平元康（徳川家康）が兵糧入れを行った城として知られる。現在は大高城跡公園として市民に親しまれ、公園内では、堀や土橋などの痕跡を見ることができる。丸根・鷺津砦と合わせ国の史跡に指定。
26	1-26	丸根砦跡	まるねとりで	名古屋市緑区	大高城と鳴海城との往来を遮断するため、織田信長が築城。桶狭間の戦いの際、松平元康（徳川家康）の軍と激戦の末、全滅したとされる。現在、砦跡に石碑が立つ。大高城、鷺津砦と合わせ国の史跡に指定。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
27	1-27	長福寺	ちょうふくじ	名古屋市緑区	桶狭間の戦いの後、織田信長が境内で義元や武将の首検証をしたと伝わります。立ち会った茶坊主・林阿弥は菩提を弔うため再び寺を訪れ、その時持参した阿弥陀如来が寺のご本尊として祀られています。堂内には今川義元と松井宗信の木像も安置されています（非公開）。
28	2-1	前芝の灯明台	まえしばのとうみょうだい	豊橋市	江戸時代の寛文8（1668）年吉田藩の御用船が暴風雨にあい遭難したため、当時の藩主小笠原長矩が航海の安全を図るために寛文9（1669年）にこの灯明台を建設した。
29	2-2	湊神明社	みなとしんめいしゃ	豊橋市	白鳳元年（629）創建といわれ、元和年間（1615～24年）に始まり、かつては吉田城最大の祭りと呼ばれた伊勢神宮に御衣（絹）を献上する「御衣祭」が現在も行われている。
30	2-3	安海熊野社	やすみくまのしゃ	豊橋市	戦国時代以降明治初年にいたるまで、この神社の境内で魚市場が開かれていたこともあって今も魚町の鎮守となっています。吉田藩主大河内家が所有していた能面・狂言面と装束等360点を所蔵し、これは市指定の文化財や県指定文化財となっています。
31	2-4	二川宿 （本陣資料館・商家 駒屋）	ふたがわしゆく	豊橋市	徳川家康が、翌慶長6年から宿場を設置した東海道53次33番目の宿場である。江戸時代の建造物である、本陣・旅籠・商家が公開されており、3カ所が見学できる日本雄一の宿場町になっている。
32	2-5	吉田城址	よしだじょうし	豊橋市	東三河の要衝として、戦国時代には牧野氏と戸田氏による激しい争奪戦が繰り広げられた。徳川四天王の酒井忠次や、のちに姫路城を築く池田輝政も城主を務めた。安土桃山時代の野面積み高石垣は全国屈指の規模を誇る。
33	2-6	普門寺	ふもんじ	豊橋市	開山1300年の古刹。戦国時代、裏山に国境の軍事拠点として「船形山城」が築かれました。今川義元、氏真、徳川家康、酒井忠次からの文章が現存しており、時の権力者の庇護を受けた歴史を今に伝えています。
34	3-1	岡崎城	おかざきじょう	岡崎市	岡崎城は徳川家康公が生まれた城として有名です。1959年には天守が3層5階建てに復興され、2006年には日本100名城に選定されました。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
35	3-2	三河武士のやかた家康館	みかわぶしのやかた いえやすかん	岡崎市	徳川家康の出生から天下統一までの生涯と、それを支えた三河武士たちについて常設展示室で解説しています。企画展示室では岡崎の歴史、武士や江戸の文化に関連した企画展を開催します。
36	3-3	大樹寺	だいじゅじ	岡崎市	松平家・徳川将軍家の菩提寺で、文明7年（1475）松平家4代親忠公により勢誉愚底上人が開山しました。境内にはその際に家康公が佇まれたと云われる松平家8代の墓や、国の重要文化財であり家康公の祖父・松平清康公が天文4年（1535）に建立した多宝塔などがあります。
37	3-4	六所神社	ろくしょじんじゃ	岡崎市	松平家の産土神として松平家・徳川家の崇敬が篤く、現在も「安産の神様」として信仰されている神社です。本殿・幣殿・拝殿・楼門・神供所は国の重要文化財に指定されています。
38	3-5	松應寺	しょうおうじ	岡崎市	1560年（永禄3年）、徳川家康が父松平広忠菩提のため、隣誉月光を開山として創建しました。御廟所は、国内有数の格式と規模を誇り、史跡として岡崎市文化財に指定されています。大規模な修復を三年かけて行ない、2022年5月に完成、昔日の荘厳さを取り戻すことができました。
39	3-6	法蔵寺	ほうぞうじ	岡崎市	家康公が幼少のころ、手習いや漢籍などの学問に励んだと伝えられる寺で、硯箱・硯石・手本・机・墨付小袖・破魔弓など家康公幼少期の品のほか、境内には六角堂開運勝利観音・東照権現宮・家康公ゆかりの草紙かけ松・おてならい井戸・お手植えの桜などの文化財も多く現存しています。
40	3-7	天恩寺	てんおんじ	岡崎市	貞治元年（1362）足利義満が尊氏の遺命で建立したと言われており、臨済宗妙心寺派の三河地方の中心寺院です。1575年、家康公が長篠城へ向かう際に天恩寺で一泊した翌日、大杉の下まで来た時に延命地蔵に呼び止められ、大杉の影から矢を射る敵から寸前で身を守ったという逸話があります。
41	3-8	日吉丸石投の井戸	ひよしまるいしなげ のいど	岡崎市	まるや八丁味噌の敷地内にある、日吉丸（子供のころの秀吉）の逸話が残る井戸。
42	3-9	矢作橋	やはぎばし	岡崎市	矢作川にかかる橋で、橋上を東海道（国道1号）が通っています。橋の西側に、日吉丸（子供のころの秀吉）と蜂須賀小六の逸話をもとにした石像が立っています。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
43	3-10	御旗公園	みはたこうえん	岡崎市	岡崎城総堀跡に位置している公園です。公園内には田中吉政の石像が立っています。
44	4-1	浅野公園	あさのこうえん	一宮市	長政は叔父浅野長勝に養われ、この地で成長した。織田信長のお弓頭を勤めていた長勝には二人の娘がおり、姉（祢々（ねね））は豊臣秀吉に嫁し（北政所）、妹（弥々）は長政の妻となった。
45	4-2	黒田城跡	くろだじょうあと	一宮市	土佐20万石の大名に出世した山内一豊は黒田城で出生した。黒田小学校北東側の一角に城門を再現して、城跡が整備されている。また、顕彰会が設置した偉人を讃える「一豊立志像」がある。
46	4-3	旧林家住宅	きゅうはやしけじゅうたく	一宮市	旧林家住宅は、明治24年（1891年）の濃尾地震で倒壊したが、大正2年に再建され、国の登録有形文化財（建造物）に登録されている。昭和初期に作られた庭園も国登録記念物に登録されている。
47	4-4	聖徳寺跡	しょうとくじあと	一宮市	加賀野井城（岐阜県羽島市）を攻撃した時の本陣となった。織田信長と斎藤道三の会見場所となったと推定されている。戦国期に移動を繰り返しながらも、浄土真宗の有力寺院として栄えた。
48	4-5	天神の渡し跡	てんじんのわたしあと	一宮市	萩原川（日光川）が木曾川の本流だった時代に、石田三成等奉行が船頭への給与を安堵した。 秀吉の義兄が萩原に居館を構えていたとされる。
49	4-6	妙興寺	みょうこうじ	一宮市	滅宗宗興を開山とする臨済宗妙心寺派の寺院。うっ蒼とした樹林につつまれた境内地は県指定史跡であるほか、勅使門は国指定重要文化財になっている。豊臣家が保護し、秀吉の肖像画が保有されている。
50	4-7	一宮市木曾川資料館	いちのみやしきそがわしりょうかん	一宮市	山内一豊を中心に、浅野長政、兼松正吉、奥村永福など一宮市ゆかりの戦国武将、史跡などを紹介している。建物は大正13年（1924年）に竣工した旧木曾川町会議事堂で、平成18年（2006年）に国の登録有形文化財となった。
51	4-8	大野城跡	おおのじょうあと	一宮市	天正12年(1584年)、小牧・長久手合戦の時、下奈良、宮後、河田の砦とともに秀吉方の砦として利用され、その後大野佐渡守等が居住したと伝承されている。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
52	4-9	河田城跡	こうだじょうあと	一宮市	天正12年(1584年)、小牧・長久手合戦の時、秀吉が小牧山の徳川・織田軍に対して構築した城砦の一つであり、昭和38年(1963年)に護岸工事のため湮滅した。
53	5-1	定光寺	じょうこうじ	瀬戸市	尾張の国守祖徳川義直公が巡行しているところ、定光寺に立ち寄り、その風光を愛しました。
54	6-1	天龍山 常楽寺	てんりゅうざん じょうらくじ	半田市	桶狭間の戦いに敗れた家康が、岡崎へ向かう途中立ち寄ったとされる。その際に家康から贈られた鋳物製の鞍と鐙が寺宝として伝えられている。さらには、伊賀越えで危機を脱した際も立ち寄ったとされる。
55	7-1	太清寺	たいせいじ	春日井市	小牧・長久手の戦いの際、徳川家康が小牧山から長久手に向かう折に阿弥陀堂で休憩し、寺のある「勝川(かちがわ)」という地名から験を担ぎ、その後秀吉との戦いに見事勝利したと伝えられています。
56	7-2	内々神社	うつつじんじゃ	春日井市	「延喜式神名帳」に記載されており、日本武尊と深い関係がある由緒正しい神社。昔から武将の尊崇が厚く、豊臣秀吉が朝鮮役の際に戦勝を祈願して、この社頭から軍船用の帆柱を伐り出したといわれています。
57	7-3	林昌寺	りんしょうじ	春日井市	織田信雄が父・信長の大法会を清州の総見寺で行った際に、熱田神宮から没収し総見寺に納めたと伝えられている梵鐘(県指定文化財)があります。
58	7-4	大留城跡	おおどめじょうあと	春日井市	小牧・長久手の戦いの際、秀吉方の池田恒興が城主である村瀬作左衛門らとともに軍議を開いたのち、庄内川を渡って進軍したとされています。長久手にて村瀬は討死し、廃城となりました。現在は祠と城址の碑が残っています。
59	7-5	伊多波刀神社	いたはとじんじゃ	春日井市	小牧・長久手の戦いの際、犬山城が秀吉方の池田恒興によって攻め落とされたのち、敗残兵が集結していた神社。家康自ら出向いて彼らを慰撫し、田楽砦を守護させたとされています。
60	7-6	坂下御殿跡	さかしたごてんあと	春日井市	徳川義直公が鷹狩りと兵馬の演習をする際、兵馬を泊めるために建てた狩り小屋の井戸跡が残っており、石碑が建てられています。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
61	8-1	西明寺	さいみょうじ	豊川市	永禄5年（1562年）に徳川家康の東三河出陣に協力し、その際に家康の命により西明寺に改めたと伝えられる。慶長8年（1603年）には家康から寺領20石を与えられた。
62	8-2	豊川稲荷	とよかわいなり	豊川市	豊川稲荷は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康らの信仰を集め、江戸時代には商売繁盛、家内安全の神として全国に信仰が広まった。豊川稲荷に現存する最古の建物である山門は、今川義元が寄進したものである。
63	8-3	長谷寺	ちょうこくじ	豊川市	長谷寺には、武田信玄に仕えた武将として知られる山本勘助の墓（遺髪塚）がある。川中島合戦で討死後、勘助と親交のあった長谷寺住職の念宗が生前に託されていた遺髪を埋め、五輪塔を建立したといわれる。
64	8-4	大聖寺	だいしょうじ	豊川市	大聖寺には今川義元の胴塚がある。義元は永禄3年（1560年）に織田信長の奇襲を受け、尾張国桶狭間にて戦死した。義元の家臣達は主君の遺骸を牛久保まで運び、大聖寺の境内に葬り、手水鉢を墓印にしたという。
65	8-5	松永寺	しょうえいじ	豊川市	天正3年（1564年）に織田信長・徳川家康の連合軍と武田勝頼軍との間で行われた長篠の合戦で大きな役割を果たしたのが鳥居強右衛門勝商である。松永寺には鳥居強右衛門の生誕地の石碑と磔姿の木造がある。
66	8-6	鳥居強右衛門勝商顕彰碑	とりいすねえもんか つあきけんしょうひ	豊川市	赤塚山公園の中腹には、長篠の合戦で一命をかけて落城寸前の長篠城の兵を救った、市田出身の鳥居強右衛門勝商を顕彰するために建立された石碑と辞世の歌碑がある。
67	8-7	岩略寺城跡	がんりゃくじじょう あと	豊川市	岩略寺城跡は東西三河の境目に位置し、戦略上重要な山城であった。永禄4年（1561年）に松平元康（後の家康）が長沢の城を落とすと、深溝の松平伊忠を城番に命じて松平氏の東三河侵攻の拠点とした。
68	8-8	伊奈城趾公園 花ヶ池	いなじょうしこうえん はながいけ	豊川市	伊奈城主本多正忠は、松平清康（家康の祖父）を伊奈城に迎えた際、水葵の葉に肴を盛って差し出した。清康は心づくしに喜び、本多家の立葵紋を望み、正忠は承諾したという。この水葵をとった池が花ヶ池と伝えられる。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
69	8-9	大恩寺	だいおんじ	豊川市	御津山の北麓にある浄土宗の名刹で、牛久保城主だった牧野氏の庇護を受けていた。徳川家とも関係が深く、元の時代の仏画であるとされる国指定重要文化財の仏画「絹本著色王宮曼荼羅図」など、多くの文化財が保管されている。
70	8-10	一宮砦跡	いちのみやとりであ と	豊川市	松平家康が築いたと伝えられる砦で、家康が東三河に進出を開始した際に今川氏真と激しい攻防を繰り広げた歴史の舞台。
71	9-1	津島神社	つしまじんじゃ	津島市	建速須佐之男命と大穴牟遲命を御祭神とし、古くは除疫、授福の神である「牛頭天王社」とも呼ばれ、京都の八坂神社と並ぶ天王社として崇められています。また、全国に3000以上も点在する津島神社の総本社でもあります。
72	9-2	天王川お旅所	てんのうがわおたび しょ	津島市	旧暦6月14日（今は7月第4土曜日）の宵祭の日、「天王さま」が神輿で津島神社から、おいでになり祭礼をご覧になる場所。この場所付近に旧天王橋がかけていたとされ、織田信長もこの橋から祭見物したと伝えられている。
73	10-1	称名寺	しょうみょうじ	碧南市	豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に使用した船を、岡崎城主に命じて称名寺境内に作らせたと伝わる寺
74	10-2	宝珠寺	ほうしゅじ	碧南市	秀吉に「池田勝入が首を取った者か」と言わせた「永井直勝」の生誕地
75	11-1	椎の木屋敷跡	しいのきやしきあと	刈谷市	徳川家康生母・於大が、松平広忠と離縁された後、一時を過ごした屋敷。於大は兄信元が織田氏と手を組んだことから離縁させられ、刈谷に戻されることとなった。この後、信元の薦めで阿久比の久松俊勝に再嫁した。
76	11-2	楞巖寺	りょうごんじ	刈谷市	曹洞宗。応永20年（1413）遠州浜松普濟寺の利山義聡により開山した。於大は、松平広忠に離縁された後、たびたび当寺に参詣したと伝わる。伝通院ゆかりの品を所蔵し、境内の「水野家廟所」は市指定史跡。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
77	11-3	亀城公園（刈谷城跡）	きじょうこうえん （かりやじょうあと）	刈谷市	父水野忠政によって築かれた城で、桶狭間の戦いの後、信元の居城となった。城跡は公園として整備されている。当時の建造物はほとんど残っていないが、堀の一部が池になっているほか、本丸周辺の土塁などが残る。
78	12-1	松平東照宮	まつだいらとうしょうぐう	豊田市	徳川家康と、松平家の初代・松平親氏が祀られており、108枚の漆絵の天井画が飾られています。境内には家康公も産湯に用いたと言われる「産湯の井戸」があり、不老長寿や安産の御利益があるとされています。
79	12-2	高月院	こうげついん	豊田市	高月院はもとの名を「寂静寺」ともいい、寛立上人が在原信重の援護を受けて1367年に建立したと言われています。現在の山門や本堂は1641年に徳川家光によって建てられたものと言われ、境内には松平氏墓所があります。
80	13-1	本證寺	ほんしょうじ	安城市	鎌倉時代創建の真宗寺院。三河一向一揆では、一揆勢の拠点のひとつとして家康と戦った。一揆後は一旦破却されるが、約20年後に赦免、再興した。二重の堀を持つことから、城郭寺院ともよばれる。
81	13-2	安祥城址（安城城跡）	あんしょうじょうし （あんじょうじょうあと）	安城市	徳川家康を輩出した安城松平家の四代の居城。家康の父広忠の時代、織田信長の父信秀と、この城を10年に渡り奪い合った。信長の兄信広と織田の人質だった竹千代（家康）と、城の西で交換して終結した。
82	13-3	丈山苑（石川丈山邸址）	じょうざんえん（いしかわじょうざんていし）	安城市	京都詩仙堂を建てた石川丈山の出生地。丈山は16歳で徳川家康に仕え、後に文人となり、詩仙堂にて隠棲生活を送った。丈山苑では、詩仙堂唐様庭園、一休寺酬恩庵蓬萊庭園、東本願寺涉成園を再現している。
83	13-4	大岡白山神社	おおおかはくさんじんじゃ	安城市	松平清康（徳川家康の祖父）が造営し、家康が本殿を再建した神社。1540年、尾張の織田信秀（信長の父）が三河へ侵入、安城城を奪い取り、この神社を焼失させた。1567年に家康が再建。安城市内最古の建造物。
84	13-5	山崎城址	やまざきじょうし	安城市	安城合戦の最中に築城された織田軍の前線の城。尾張の織田信秀（信長の父）が安城城を奪い取った後、1543年に岡崎城と矢作川をはさんで対峙する山崎城を築城。1548年には廃城となった。堀と土塁が残る。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
85	13-6	円光寺	えんこうじ	安城市	三河一向一揆の際、円光寺の9代住職であった順正は一揆勢の大將格であった本證寺の空誓の副将として活躍した。一揆勢が敗れた小川安政の戦いの際には、空誓の身代わりとして「野寺本證寺空誓とは我のことなり。」と叫びながら、腹を真一文字に切りながら崖から落ちたため、騙された家康軍は本證寺を攻撃せずに岡崎城に帰ったとされる。堀があったことから城郭寺院と呼ばれる。
86	13-7	三河石川一族発祥の地	みかわいしかわいちぞくはっしょうのち	安城市	石川政康は、1411年（応永18年）に下野国小山城に生まれ、35歳にして三河国に移り、小川城を築城した。政康の四男である石川康頼は、出家後に石川山蓮泉寺を開祖した。三河石川一族発祥の地は蓮泉寺のすぐ近くにある。なお、家康の懐刀として活躍した後、豊臣家に出奔したことで知られる石川数正も三河石川一族である。
87	13-8	桜井城址	さくらいじょうし	安城市	桜井城は、1471年（文明3年）松平信光の安城城進出により、松平氏の支配下に入ったと推定されている。安城松平家2代松平長忠の子である松平信定が養子に迎えられ、桜井松平家の初代となった。桜井松平家は信定の代から松平宗家を狙って安城松平家に敵対的であったが、4代松平忠正が三河一向一揆で家康公に敗れ、以後は家康公に仕えた。
88	13-9	本多忠高墓碑、本多忠豊墓碑	ほんだただたかぼひ、ほんだただとよぼひ	安城市	本多忠高は徳川四天王・本多忠勝の父。本多忠豊は忠勝の祖父。ともに安城城をめぐる安城合戦の中で活躍するも討ち死にした。
89	13-10	誓願寺	せいがんじ	安城市	松平・徳川家に仕えた内藤家の菩提寺であったと伝わる寺。境内には内藤重清と内藤清長のもので伝わる墓碑がある。重清は井田野合戦の際に安城城主だった松平親忠と争ったが敗れ、親忠に仕えることになる。内藤家はそれ以来松平・徳川家のもので活躍する。清長は松平清康（家康の祖父）から一字をもらい名付けられた。1542年（天文11）には上野下村城にたてこもり織田信秀（信長の父）の軍勢と戦って、これを退けるなどの活躍をした。
90	14-1	西尾城跡（西尾市歴史公園）	にしおじょうあと （にしおしれきしこうえん）	西尾市	桶狭間の戦いを機に、今川氏の支配から独立した松平元康（徳川家康）が三河統一に乗り出し、1561年に西尾城を落とすと、家臣の酒井政家（正親）が入城。85年に家康が大改修を行い、防御設備「丸馬出」等が構築された。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
91	14-2	華蔵寺	けぞうじ	西尾市	1600年に吉良義定が、亡くなった父義安を開基として再興した吉良家の菩提寺です。 吉良義定は系譜上家康の従兄弟といわれており、吉良家は江戸幕府により再興されたともいわれますが、事実は分かっていません。
92	14-3	康全寺	こうぜんじ	西尾市	1579年に家康公が村巡検で西尾を訪れた際にこの寺に宿泊しており、その時家康から一字を拝領して西尾山康全寺と改めたと伝えられます。西尾城下の中心寺院として栄えています。
93	14-4	今川氏発祥の地	いまがわしはっしょうのち	西尾市	今川氏は守護・戦国大名として発展しますが、桶狭間の戦い（1560年）で今川義元が討ち死にすると、しだいに衰退していくことになります。そして、今川氏の支配下から離れた家康が三河統一を進めていきます。
94	14-5	実相寺	じっそうじ	西尾市	天正年間（1573～92）、実相寺の再興に家康の重臣鳥居元忠が尽力したようで、彼の墓といわれる石塔が境内墓所に遺っています。
95	14-6	崇運寺	そううんじ	西尾市	家康は関ヶ原の戦いの前夜、伏見より会津の上杉景勝討伐に向かう途次、佐久島に宿泊していることが同時代の史料で確認できますが、崇運寺に伝わる「佐久島旧記」によれば停泊場所は崇運寺のようです。
96	15-1	上ノ郷城跡	かみのごうじょうせき	蒲郡市	蒲郡一帯を治めていた鵜殿氏の居城。鵜殿氏は今川氏の親戚としてこの地域で強い立場にあった。三河統一を目指す家康の前に今川方として立ちはだかったが、家康の忍者を用いた城攻めによって落城した。
97	16-1	犬山城	いぬやまじょう	犬山市	室町時代の天文6年（1537）に織田信長の叔父・信康が築城、天守は現存する日本最古のものです。扇状地である濃尾平野の扇の要に位置し、天守最上階からの眺めはまさに絶景です。
98	17-1	大野城址	おおのじょうし	常滑市	三代将軍徳川家光の母「お江」が最初に嫁いだ城の跡地
99	17-2	正住院	しょうじゅういん	常滑市	徳川家康にゆかりのある寺とされています。本能寺の変の際、徳川家康らが堺から伊賀越えて岡崎に帰る途中、この寺の海岸に面した裏門から寺内に入り休憩をとったとされています。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
100	17-3	東龍寺	とうりゅうじ	常滑市	徳川家康にゆかりのある寺とされています。桶狭間の戦いと、本能寺の変後の伊賀越えで2度家康を救ったとされています。
101	17-4	大善院	だいぜんいん	常滑市	徳川家康にゆかりのある寺とされています。本能寺の変の際、徳川家康らが堺から伊賀越えで岡崎に帰る途中、お参りのために立ち寄ったとされています。家康が奉納したとされる木馬と短剣があります。
102	18-1	日輪山 曼陀羅寺	にちりんさん まんだらじ	江南市	豊臣秀吉に仕えた蜂須賀家政（小六正勝の子）が幼少期に塔頭の本誓院で手習いを受けた縁で位碑や手習いの机を保管。本堂は1632年に家政が寄進したもの。また書院は関ヶ原の戦いの折、東軍が軍議を開いた場所でもある。
103	19-1	小牧山城	こまきやまじょう	小牧市	織田信長が初めて自らの手で築城した城。信長は4年間居城した後、信長の後継者争いである小牧・長久手の合戦で徳川家康が本陣とした。家康は徳川四天王の一人である榊原康政に命じ、5日間で強靱な城に改修させた。今も当時の遺構をみることができる。
104	19-2	小牧神明社	こまきしんめいしゃ	小牧市	織田信長が清須から小牧山へ居城を移した際、厄除けのために清須の御園神明社から分祀された。小牧・長久手の戦いでは、家康が必勝祈願をしたとされる。250年以上の歴史を持つ秋葉祭には4台の山車が境内に揃う。
105	19-3	岩崎山砦跡	いわさきやまとりであと	小牧市	小牧・長久手の合戦で秀吉軍が4千の兵で守らせた砦が山頂か熊野神社にあったとされる。名古屋城築城の際に岩崎山の岩を用いるために切り出された。中腹の熊野神社境内にある5枚岩は県の天然記念物に指定されている。
106	20-1	勝幡城跡	しょばたじょうあと	稲沢市・愛西市	織田信長の生誕地でもある織田氏の居城跡。
107	20-2	長光寺	ちょうこうじ	稲沢市	若かりし日の信長の遊び場とされています。境内奥には臥松水の井戸があり、信長が愛飲していたと伝わります。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
108	20-3	布智神社	ふちじんじゃ	稲沢市	信長が武運祈願をし、清須城主もしばしば鎮火・尚武の祈願をしたと伝わる由緒ある神社。
109	20-4	赤染衛門歌碑公園	あかぞめえもんかひ こうえん	稲沢市	尾張守に任命された夫・大江匡衡とともに稲沢を訪れた際、衣をかけたと言われる松があった場所が歌碑公園となっています。
110	21-1	設楽原歴史資料館	したらがはられきし しりょうかん	新城市	館内にある5つに分けられたコーナーでは、長篠・設楽原の戦いにまつわるコーナーとして、「設楽原の戦い」、「火縄銃」、「火おんどり」のコーナーがあります。新城の歴史と将来に思いを馳せてみてください。
111	21-2	長篠城址	ながしのじょうし	新城市	永正5年（1508年）に菅沼元成によって築かれ、豊川と宇連川の合流点に位置し、北方に人工の堀と土塁を置いた堅固な造りとなっていた。1575年、武田の大軍を迎えて、城主・奥平貞昌以下500の城兵がこの城を守って奮戦、設楽原での織田・徳川連合軍勝利のきっかけを作った。
112	22-1	今川塚	いまがわづか	東海市	桶狭間の合戦（1560）で織田信長に敗れた今川義元のお墓と伝えられる供養塔があります。横須賀小学校の東方に「今川さん」と呼ばれる供養塔と、「今川義基墳」と刻まれた碑が建っています。桶狭間の合戦に敗れた今川義元の家来がここまで逃げてきて、殿の遺体を永昌院（塚の南方にあったお寺）へ葬ったといいます。この塚は江戸時代の絵地図にも書き残されています。碑の文字が「義元」ではなくて、「義基」となっているのは、敵に見つかるのを防ぐためであったと伝えられています。
113	23-1	大草城址	おおくさじょうし	知多市	織田信秀の11男で織田信長の弟である織田長益（有楽斎）が築城をしようとして途中で断念した「幻の城」。現在本丸・二の丸と周囲の土塁・堀の大部分がほぼ完全な形で残っている。
114	24-1	知立古城趾	ちりゅうこじょうし	知立市	知立神社の神官永見氏の居城で、桶狭間合戦後に落城しました。のち、刈谷城主水野忠重が、この土地にお屋敷を建てました。江戸時代はじめは、将軍上洛用の旅舎として使われましたが、元禄期の地震で倒壊したのちは、再建されませんでした。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
115	25-1	本地ヶ原神社	ほんじがはらじん じゃ	尾張旭市	小牧・長久手の戦いの局地戦のひとつ「白山林の戦い」がこの周辺で行われたと考えられる。「白山林」の地名の由来となったと思われる白山社があった位置に建てられていた「元白山神社」の石碑が境内に移設されており、白山林の戦いでなくなった方を祀る「兜神社（昭和45年創建）」という小社がある。
116	25-2	本地ヶ原公園	ほんじがはらこうえん	尾張旭市	小牧・長久手の戦いの局地戦のひとつ「白山林の戦い」の史跡看板。
117	25-3	洞光院	どうこういん	尾張旭市	棒塚の石碑がある。棒塚とは、小牧・長久手の戦いの局地戦のひとつ「白山林の戦い」の際、三好信吉軍（のちの豊臣秀次）に食料の提供を断りに行き殺された棒の手・無二流の師範と禰宜を弔うために作られた塚で今の城前町のあたりにあったもの。
118	25-4	良福寺	りょうふくじ	尾張旭市	市指定文化財「織田信雄書状」がある。天正十年に寺領を安堵したもの。
119	25-5	少林寺	しょうりんじ	尾張旭市	義直の側室である貞松院が、白山林（現在の市南西部の丘陵）にきのこ狩りに来ていた際、突然の風雨があり、少林寺の前身・瑞心庵に立ち寄った。その後、瑞心庵は白山林より遠く景色も良くないが、白山林のふもとに寺を移せば立ち寄るのに良いとして、金を与えられたため、寛文十二年に現在の地に寺を移し少林寺と改号した。
120	25-6	つんぼ石	つんぼいし	尾張旭市	殿様街道の起点（瀬戸街道からの分岐点）にたっていた石。つんぼ石の横には小さな道標もあり、「右 セト志奈の道 左 定光寺かさわら道」と刻まれている。現在、つんぼ石と道標は砂川公園横に移設されている。（つんぼ石は、名古屋城築城のために運んでいた石が荷車から落ちたものと伝わる。石を落としたことを誰にも言うなと口止めされた村人たちが、役人に何をきかれても話さなかったことから「つんぼ石」と呼ばれるようになったと言われている。）
121	25-7	愛知県森林公園	あいちけんしんりん こうえん	尾張旭市	現在の運動広場や第一野球場、テニスコート東の森の中を殿様街道が通っていた。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
122	25-8	殿様街道（起点）看板	とのさまかいどう	尾張旭市	殿様街道の起点を解説する看板
123	25-9	殿様街道（柏井）	とのさまかいどう	尾張旭市	史跡看板
124	25-10	殿様街道（新居）	とのさまかいどう	尾張旭市	史跡看板
125	26-1	春日神社・八剣社	かすがじんじゃ はっけんしゃ	高浜市	春日神社は室町時代の永正年間に現在地に鎮座したといわれます。由緒書によると、天正10年には徳川家康が武運を祈り参拝し、榊を奉納したとされます。春日神社拝殿内に掲げられている絵馬「高浜湊図」は天保14年に奉納されたものです。かつての海岸線沿いの風景が詳細に描かれており、市指定文化財になっています。
126	27-1	建雲山龍潭寺	けんうんざんりゅう たんじ	岩倉市	小牧・長久手の戦いの際に、家康が逗留したと言われている。
127	27-2	岩倉城跡	いわくらじょうあと	岩倉市	織田信安・信賢が城主の際、信長に攻め滅ぼされ廃城。尾張北部を治めていた。
128	27-3	智徳山誓願寺	ちとくざんせいがん じ	岩倉市	境内に、織田伊勢守信安夫妻の墓がある。昭和39年に移設。
129	27-4	山内一豊生誕地碑	やまのうちかずとよ せいたんちひ	岩倉市	天文14年（1545）7月、岩倉に誕生した戦国武将・山内一豊の誕生地碑。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
130	28-1	沓掛城址公園	くつかけじょうしこう えん	豊明市	桶狭間の戦い前夜に軍議を開き、先鋒として松平元康に大高城への兵糧入れを命じた城。その翌日朝、今川義元が尾張攻めに向けて最後の出陣となった城でもある。
131	28-2	(国指定史跡) 桶狭間古戦場伝説地	おけはざまこそせんじょ うでんせつち	豊明市	永禄三年(1560年)5月19日。「桶狭間の戦い」で、今川義元が討たれた。この戦いの結果、織田信長の名が全国に名を馳せることとなったが、このことで、織田信長に仕えていたのちの豊臣秀吉の次男豊臣秀長が農民から武士へと覚悟を決めるきっかけになった戦いでもあった。
132	29-1	岩崎城	いわさきじょう	日進市	天正12年、小牧・長久手の戦いにおける戦場の1つ。小牧・長久手の戦いが起こる直前、羽柴秀吉は城主丹羽氏次を尾張半国を条件に勧誘するも氏次はこれを拒否し使者を追い返した。4月9日、岩崎城を守る丹羽氏重は岡崎別動隊を足止めし、それが長久手の戦いへと繋がった。長久手の戦いで勝利した家康は丹羽家の活躍を褒め称えたと伝わる。
133	29-2	藤島城址	ふじしまじょうし	日進市	天文20年、岩崎城の本家丹羽家に謀反を起こした分家丹羽家の居城。謀反の際に織田家に援軍を頼み、若き織田信長が岩崎城を攻めようとするも丹羽氏識らに横山(現北高上)において奇襲を受け失敗。分家丹羽氏秀は藤島城から逃げ出し、三河広見城の中条氏に助けを求めたと伝わる。
134	29-3	横山	よこやま	日進市	天文20年、岩崎城の本家丹羽家に謀反を起こした分家丹羽家の援軍として出陣した若き織田信長と本家丹羽氏識、氏勝親子が戦った戦場。丹羽軍は織田軍の先陣に奇襲をかけ、織田軍を追い返したと伝わる。
135	30-1	田原城跡	たはらじょうせき	田原市	永禄8年(1565)、田原城は三河統一を目指していた徳川家康に攻略された。戦国～江戸時代初期にかけての土塁、空堀、石垣、水堀などが残されている。
136	30-2	長仙寺	ちょうせんじ	田原市	徳川家康が田原城を攻める際に本陣とした。僧侶の養成機関として地域の真言宗僧侶を育て、東三河一帯に派遣していた寺であったことから、本堂は一般参拝者の参拝スペースが狭く作られている。
137	30-3	西光院	さいこういん	田原市	豊臣秀吉の家臣を務めていた大谷吉継が関ヶ原の戦いで自害した後に、その一族が愛知県田原市浦町に落ち延びた。大谷家の菩提寺。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
138	30-4	八幡社	はちまんしゃ	田原市	豊臣秀吉の家臣を務めていた大谷吉継の御神体（水晶、鏡、シジの樹の葉）が祀られている。由緒碑には大谷家の歴史も刻まれている。
139	31-1	大野城址	おおのじょうあと	愛西市	1584年4月、秀吉対家康の「小牧・長久手の戦い」に連動しこの地域で起こった「蟹江合戦」で、大野城を守っていた山口重政は母を人質に取られながらも徳川方に味方して敵を撃破、徳川天下取りの基礎をひらいた。
140	32-1	清洲城	きよすじょう	清須市	信長は清洲城から桶狭間の戦いに出陣し、大軍であった今川義元に勝利しました。清洲城は、信長が天下統一を歩み始めた出発点と言えます。
141	32-2	日吉神社	ひよしじんじゃ	清須市	清洲三社の□つで宝□2年（771年）、疫病を鎮めるために建□されました。戦国時代、秀吉の母は日吉神社に祈願をし秀吉を授かり、そのため幼名を日吉丸と名付けたとされておりま。
142	33-1	平田寺	へいでんじ	北名古屋	1564年（永禄7年）、平田城主であった平田和泉守が開いた曹洞宗の寺院。豊臣秀吉、平田和泉守の位牌がある事や、黒池龍神にまつわる雨乞い伝説で知られる。
143	34-1	福谷城跡	うきがいじょうあと/ うきがいじょうせき	みよし市	福谷城跡は、境川とその支流小石川に挟まれた舌状の丘陵地の先端に位置し、主郭とその周辺に複数の曲輪、櫓、堀、土塁などを配した平山城である。松平家家臣団として活躍した酒井忠次、大久保忠佐ら今川・松平勢が守る福谷城に、柴田勝家ら織田勢が攻撃を加えたとされる。
144	35-1	鳳凰山甚目寺	ほうおうざんじもくじ	あま市	西暦597年に、伊勢の甚目龍麿が入り江で漁をしていた際、網に聖観音像がかかり、お堂を建てその像を納めたのが当院のはじまりとされる。江戸時代より、尾張四観音寺のひとつとして栄えている。
145	35-2	菊泉院	きくせんいん	あま市	戦国武将福島正則の菩提寺。霊園には正則の供養塔と記念碑がある。寺の南に誕生地碑がたち、その南西に正則の生家があったと地元では伝わる。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
146	35-3	妙勝寺	みょうしょうじ	あま市	創建は弘長元年(1262年)。庫裏は文禄4年(1595年)清須城主であった福島正則が城の長屋一棟を寄進したと伝えられている。
147	35-4	芳春院顕彰札	ほうしゅんいんけんしょうさつ	あま市	七宝町沖之島は、加賀百万石の礎を築いた藩祖・前田利家を支えた妻まつ(後の芳春院)の生誕推定地とされ、ここに顕彰札がたてられている。
148	35-5	蓮華寺	れんげじ	あま市	戦国武将蜂須賀小六正勝とその子で阿波徳島藩祖である家政の菩提寺。山門手前に蜂須賀正勝公顕彰碑がたつ。
149	35-6	光明寺	こうみょうじ	あま市	秀吉が幼少の頃に修行した寺と言い伝えがある。悪童であったため、怒った寺の僧が追い出しにかかるると本尊の首まで落として暴れまわった逸話が、絵本太閤記などに記されている。
150	35-7	萱津神社	かやつじんじゃ	あま市	萱津神社は田畑を守る農耕の神鹿屋野比売神を御祭神とした神社で、日本で唯一の漬物の祖神であり諸病免除の神・縁結びの神と御神慈深き神として御神徳あり。毎年8月21日は香の物祭。
151	36-1	色金山歴史公園	いろがねやまれきしこうえん	長久手市	長久手での戦いの際に家康が軍議を開いたとされる山。山頂には家康が軍議の際に腰掛けたとされる床机石が残っている。
152	37-1	八所神社	はっしょじんじゃ	豊山町	八所神社は、1569年織田信長から社領として田地8町6反の寄進を受けていたが、豊臣秀吉が没収してしまったため、松平忠吉は信長の朱印状神領文書を見て、改めて高20石を寄進した。この時の信者が重心の小笠原監物であり、監物は愛刀一振りを奉納した。
153	38-1	堀尾跡公園	ほりおせきこうえん	大口町	堀尾金助とその母の「裁断橋物語」をテーマに、子を想う母の心を後世に伝えることを目的とした歴史公園で、春頃になると「金助桜まつり」や「おおぐち光燈路」というイベントが開催されます。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
154	38-2	小口城址公園	おぐちじょうしこう えん	大口町	1459年、織田遠江守広近によって築城されたと言われており、別名「箭筈城」とも呼ばれ、織田氏の尾張経営の中心的役割を担ってきました。その後、永禄年間（1558～1569）に信長の軍勢に攻略され廃城となったようですが、1584年小牧・長久手の戦では、一時的に秀吉方の前戦基地として再興されたこともありました
155	39-1	圓長寺	えんちょうじ	大治町	19歳の織田信長が、清洲城を攻める際に行軍した「信長街道」に面して建つ。1584年、蟹江合戦で徳川軍の井伊直政が駐軍した際に、修理・保護を受けた。江戸時代には、尾張徳川家の鷹狩の食事所となり、義直の直筆の書が伝わる。
156	40-1	富吉建速神社・八劔社	とみよしたけはやじ んじゃ・はっけん しゃ	蟹江町	豊臣秀吉が米銭を献じて、疫病退散を祈願したと伝えられている。
157	40-2	銀杏の木（龍照院境内）	ぎんなんのき（りゅう しょういんけいだい い）	蟹江町	樹齢約400年の銀杏の木は、豊臣秀吉が手植えされたといわれている。
158	40-3	蟹江城址	かにえじょうし	蟹江町	1584年、羽柴軍と織田・徳川連合軍のあいだで起こった「蟹江合戦」の舞台となった城。この合戦と翌年におきた大地震で城は壊滅した。
159	41-1	坂部城址	さかべじょうし	阿久比町	於大の方が城主・久松俊勝と再婚し、15年間暮らした城。離ればなれになった家康を想い、この地から手紙や衣類を送り続けたと言われる。現在は城山公園となっており、石碑には久松家先祖からの苦勞を刻み伝えている。
160	41-2	花かつみ園	はなかつみえん	阿久比町	野花菖蒲の群生地。桶狭間の合戦の際には、徳川家康の生母於大の方が家康の武運長久を願い、坂部城で「花かつみ」の「勝つ」という名前に思いを込め、仏前に捧げたという伝説が残っています。
161	42-1	宇宙山 乾坤院	うちゅうざん けん こんいん	東浦町	文明7年（1475）、水野貞守が水野家一族の菩提寺として創建。寛文10年（1670）には岡崎城主水野忠善により、水野氏歴代の位牌を祀る聖雄堂が建立され、境内には水野忠政と忠守・忠元・忠善の墓がある。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
162	42-2	緒川城址	おがわじょうし	東浦町	水野貞守が文明年間（1469～86）に築城したと伝えられ、忠政や信元ら水野氏の居城となっていた。現在は、土塁の一部が残されており、於大の生誕碑が建っている。
163	42-3	於大公園	おだいこうえん	東浦町	徳川家康の生母「於大の方」が、東浦町の緒川城主水野忠正の娘として生まれ、その水野家の菩提寺である乾坤院に隣接することから於大公園と名付けられた。
164	43-1	延命寺	えんめいじ	南知多町	延命寺は、開基・開山ともに永禄元年（1558）と伝えられる曹洞宗の寺院です。延命寺が所有している「洛中洛外図屏風」は、大阪の陣の際に豊臣方の御座船にあった屏風で、合戦に参加した千賀家より延命寺に寄進されたものと伝えられています。
165	44-1	大御堂寺 野間大坊	おおみどうじ のま だいぼう	美浜町	平治の乱で平清盛に敗れた源義朝公一行が、本拠地である鎌倉へ落ち延びる途中に立ち寄った野間大坊。志半ばでこの地で最期を迎えてしまいました。その後、息子である頼朝公が父の菩提寺大坊で大法要を行いました。
166	44-2	安養院	あんよういん	美浜町	安養院は、大御堂寺の一院として、1190年（建久元）に建てられた。織田信長の三男、織田三七郎信孝は、羽柴筑前守秀吉（はしばちくぜんのかみひでよし）、後の豊臣秀吉との権力争いに敗れ、岐阜城から野間に逃れてきたが、ついに逃げられないことを悟り、当院の一室で切腹して果てた。
167	44-3	恋の水神社	こいのみずじんじゃ	美浜町	御祭神は水神で美都波能女命（みとはのめのみこと）と呼ばれています。允恭天皇（第19代）の時代、大和国三輪山の大神のお告げを経て、万病に効く延命の神水として「恋の水」と呼ばれるようになり、天平3年（732年）には、持ち帰った水で聖武天皇の皇后さまの病気を快癒させたという言い伝えもあるようです。また、平安時代の「桜姫の悲恋物語」の伝説のなかに、恋人の病に効く水を求めてこの地を訪れた桜姫がついに水に辿りつけぬまま亡くなったとされ、以来、この哀しいロマンスは語り継がれました。そして、もともとは万病に御利益があることから信仰を集めていた「恋の水」でしたが、のちになって「恋の病」に効果テキメンといわれるようになり、縁むすびの神様として有名になりました。

スポット No.	所在地 No.	スポット名称		所在地住所	スポット候補地の概要
		漢字	ふりがな		
168	45-1	武雄神社	たけおじんじゃ	武豊町	武雄神社は、奈良時代以前に創建されていたと言われており、鎌倉中期からは「長尾城」というお城の一角として祀られるなど、歴史の深いお社です。承久の変後、山城国醍醐より代官として、当地に来た岩田氏が長尾城城主となり、現在もその末裔が武雄神社のご神官として勤められておられます。
169	46-1	本光寺	ほんこうじ	幸田町	深溝松平氏は三河十八松平の一つとして家康の天下統一に大きな功績を残しました。本光寺は深溝松平初代忠定が祈願所・菩提寺として建立。東廟所は神社の本殿を型どった墓石が築かれており全国的にも珍しい史跡です。
170	47-1	田峯城	だみねじょう	設楽町	文明2年（1470）に菅沼定信が築城した、奥三河における代表的な山城です。物見台からは寒狭川や四季折々の山を眺めることができます。
171	47-2	福田寺	ふくでんじ	設楽町	武田信玄が死去したと由来のある福田寺。この山門の脇にあるのが樹齢約150年以上、高さ約20メートル、幹回り約1メートルのシダレザクラです。
172	48-1	設楽城跡	したらじょうあと	東栄町	大千瀬川の流れが大きく曲がる地形を利用して築かれた山城です。鎌倉時代にこの地を治めていた設楽氏により築城され、戦国時代に城主となった伊藤氏が今のかたちに改修したと推測されます。